

犬山の町に出て学べ

大経名

体験型プロジェクト開始

大山市の名古屋経済大が、地元との連携を深める戦略を打ち出している。四月に新たな授業「体験型プロジェクト」をスタートさせ、地域連携センターも創設。積極的に町に出ることで、学生に実践的に考えて行動する能力を身につけさせ、地域発展への貢献も目指す狙いだ。



「体験型プロジェクト」を導出した。用意したのは「犬山の観光戦略を考える」をはじめ、「工業都市としての犬山を知る」「名経大の水を知る」など十ハコース。このうち半分は同市の城下町や工業地区など学外に出て体験する授業だ。

「体験型プロジェクト」を導出した。用意したのは「犬山の観光戦略を考える」をはじめ、「工業都市としての犬山を知る」「名経大の水を知る」など十ハコース。このうち半分は同市の城下町や工業地区など学外に出て体験する授業だ。

「体験型プロジェクト」を導出した。用意したのは「犬山の観光戦略を考える」をはじめ、「工業都市としての犬山を知る」「名経大の水を知る」など十ハコース。このうち半分は同市の城下町や工業地区など学外に出て体験する授業だ。

観光戦略など 実践的能力を育成



傍嶋則之准教授 佐分晴夫副学長

「古い建物だな。こういうの好きなんだよな」。四月下旬、犬山市犬山の城下町のメーンストリート・本町通りを名経大の一年生二十人が歩いてきた。古い町並みを楽しみながら、磯部邸や針綱神社など城下町の名所を訪問。携帯電話のカメラで撮影もした。

「若者が町に出てくれれば、活性化します。将来的には犬山に加え、小牧、春日井市とも地域ぐるむ。具体的には、市内で収穫した農産物を加工した新しい特産品の開発、創業塾などによって、城下町に新しい店舗が次々に生まれるような仕組みづくり、新たな観光イベントに歴史を感じた。授業として面白く、これから楽しみ」と話す。

傍嶋さんが話を持ちかけた市や犬山商工会議所から、まだ具体的な反応や進展はない。それでも、犬山には犬山の中小企業の経営指導に当たった経歴を持つ経営学部の傍嶋則之准教授(五)がセンターに就任した。

傍嶋さんは、センターと地域が協力し、犬山の発展に向け、意気込んでいる。

記者の目

名古屋経済大と犬山市、犬山商工会議所は二〇〇七年、地域の発展のために協力しようとして連携交流協定を締結した。しかし、具体的な協力活動はまだ少ない。名経大が地域重視の戦略を打ち出した今を好機ととらえ、市側も、名経大が打ち出す企画に乗ってみてはどうか。学生にとっても地域にとっても、お互いメリットがあるはずだ。

地域発展へ 連携センターも創設

副学長の佐分晴夫さん(六)が受け持つ授業「犬山の観光戦略を考える」の一環。学生は、この一年生向けに授業を基に、独自の観光戦略を考えていく。

名経大は本年度、経済、経営など全四学部、一年生向けに授業

見学のため磯部邸に入る学生たち＝犬山市犬山で

